島根大学作成日　2026 年 9 月 14 日

緩和ケアに移行した急性骨髄性白血病/骨髄異形成症候群の

患者さん、ご家族へ

1. 研究課題

終末期急性骨髄性白血病/骨髄異形成症候群の後方視的研究

2. 対象となる患者さん

2016 年 4 月～2026 年 3 月まで島根大学医学部附属病院　血液内科/腫瘍･血液内科（当科）で緩和ケアに移行した急性骨髄性白血病/骨髄異形成症候群（AML/MDS）の患者さん

3. 研究期間

2026 年 10 月 30 日から 2029 年 3 月 31 日まで

4. 研究の目的

急性骨髄性白血病（AML）や骨髄異形成症候群（MDS）の治療法は近年大きく進歩していますが、現在でも病状が難治となり、緩和ケアへ移行される患者さんは少なくありません。

これらの血液疾患は専門性が高く、血液内科以外の医師にとっては診療経験が得られにくいため、病状の見通しを立てにくいことや、輸血を必要とすることなどから、血液内科医がいない病院や自宅での緩和ケアの導入が難しいと言われています。

そこで本研究では、当科で緩和ケアへ移行された患者さんの治療内容やその効果を調査・評価いたします。本研究を通じて、将来的に血液専門医以外の医師であっても病状の見通しを客観的に把握し、輸血の適切な必要性や見直しをスムーズに判断できる基準を構築することを目指しています。

5. 研究の方法

電子カルテに記録されている患者さんの診療情報を集めて解析します。研究のために患者さんに新たに検査を実施したり、受診をしていただくことはありません 。

〇利用する情報：

患者背景：生年月日、性別、診断名（造血器腫瘍の種別）、既往歴、併存疾患

全身状態・予後予測指標：ECOG-PS、PPI（Palliative Prognostic Index）スコアおよび各構成項目（経口摂取量、浮腫、呼吸困難、せん妄）

血液検査データ：血算（ヘモグロビン値、血小板数、白血球数)、生化学（アルブミン、ビリルビン、腎機能、CRP 等）
治療の内容：活動性感染症（部位・使用薬剤)、抗がん剤治療歴、ステロイド使用状況（用量・投与目的)、医療用麻薬の使用状況、鎮静薬の使用状況、心肺蘇生の有無
転帰：生存期間（日数)、最終看取り場所
輸血実施状況：輸血（赤血球・血小板）の投与単位数・頻度、輸血前後の症状変化（主観的症状改善度)、副反応の有無および内容

6. 情報の管理

収集したデータは、島根大学医学部附属病院血液内科内の外部から容易にアクセスできない PC に保管します。

7. 個人情報の取り扱い

研究に関わる情報は個人が特定できない形式により管理します。
研究に関するデータ及び関連資料は、研究結果の最終報告を行ってから 10 年間は保管し、その後保管の必要性がなくなった時点で研究対象者の識別が不可能な状態で廃棄します。

8. 研究組織

島根大学医学部附属病院　血液内科

9. お問い合わせ先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身またはご家族の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問がある方は下記の連絡先までご連絡ください。ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人からお申し出をいただければ利用停止をすることができます。なお、利用停止のお申し出は 2027 年 4 月までにお願いします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

研究責任者：島根大学医学部附属病院　血液内科　高橋　勉
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町　89-1
電話：0853-20-2308